

珪素の機能性立証に向け

日本珪素医科学学会 創設

産学会員150名が参集

健食、化粧品、農業、医薬品など分野へ

地球の地殻中に多く含まれる微量ミネラル成分、珪素(けいそ)についての研究推進を目的とした「日本珪素医科学学会」(本部・大阪市西区、会長・柳本行雄氏(四天王寺国際仏教大学大学院前学長)が三十日、創設され、同日創設記者発表会が大阪第一ホテルで開かれた。



柳本行雄会長

会見した柳本会長は、学会創設の目的を「人の健康補助に効果的な働きをする珪素の学問的な裏づけを得ること」とし「今後、学会を通じた有効性試験、臨床試験、毒性試験などを実施、医薬品として活用されることも視野に入れ、世界で先陣を切る珪素の研究をしていきたい」と意気込みを語った。

珪素は殺菌作用や抗酸化の効果があるとされ、これまで国内では健康食品、化粧品、歯磨き粉、パン・蕎麦などの食添、また農業肥料などでも用いられている。海外ではドイツなど一部欧州国で「定審サプリメント」としても認知されているが、一方で基礎・臨床エビデンスの蓄積が課題。そこで、研究者や医師を組織し、学問的な効果を裏付けるため学会が立ち上がった。

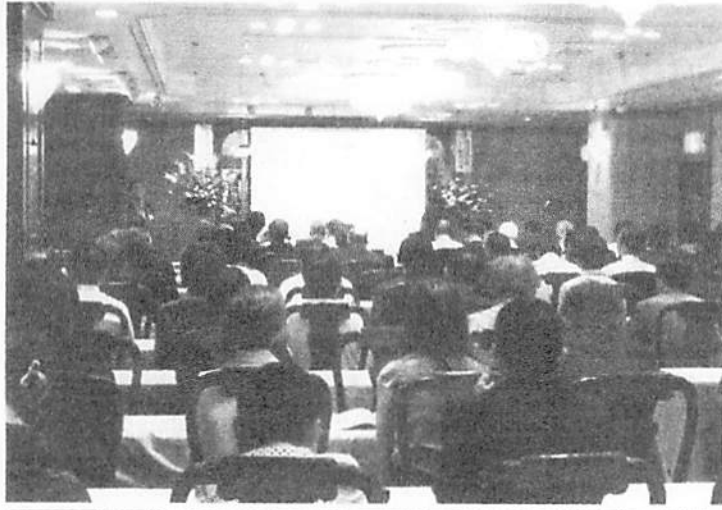
同学会の役員は、研究者を中心とした理事会と、事業主を中心とした幹事会から構成。会員は二五〇名で、年内には一〇〇〇人規模を予定。珪素の普及には台湾や中国など海外にも目を向

け世界市場を目標に、大阪に事務局を設けている。事務局は、現在準備中の東京と順次、全国各都市に開設予定。ドリエーリには大阪市内で第一回学術研究発表の場を設ける。

珪素研究者で、同学会理事の一人である横濱国立大学ベンチャービジネスラボラトリーの西園啓文氏は会

見で「明らかにようになってきた珪素の効能」として、尿量を増加させる利尿作用と腎臓のクリアランスに言及。英国の研究では珪素誘導体を使った医薬品化の研究も進められている例もあると、国内で「今までにない健康食品になっていく可能性が高い」と期待を述べた。また、発起人代表の金子

昭伯氏は「ウコン、お茶キノコ、海藻など、もともと健康に良いと認知されている食材の成分を分析していくと同成分中に珪素が豊富に含まれていることもわかってきています」とし、こうした健康食材に含有される珪素にさらに注目して欲しいと呼びかける。



珪素は元素番号14で表記される非金属元素(Si)のひとつ。シリコンともいわれ、主原料は二酸化珪素(SiO₂)から成る珪石や珪砂で、酸化ケイ酸塩として地殻中に多く存在するとされる。非医薬品に区分。国立健康・栄養研究所の「健康食品素材情報データベース」では、欠乏症による成長阻害と骨粗しょう症に対する有効性を示唆。

珪素〈解説〉

